イロイロ知りたい！ 心理学史

[第７回]
ブラジルの心理学史

サトウタツヤ

立命館大学文学部教授。ブラジルは社会包摂的な心理学，社会文化的な心理学への関心が高く，複線径路・等至性モデル（TEM）も大流行（一部の大学）。自分の論文を他国の院生さんたちが読んでくれているのは嬉しいやら恥ずかしいやら，でした。

ブラジルは 1822 年にポルトガルから独立した南アメリカの大国です。ブラジルでは，17，18 世紀にはすでに心理学的な考え方が書物に表れたとされます。そして，19 世紀になって医学校が各地に設立されると，医学校の学生の中に心理学をテーマとした論文を書いて学位を取るようになったものが現れました。リオデジャネイロの医学校では 1836 年に「魂の情熱と感情」という論文が最初であり，東北部に位置するバイア（サルバトールとも言う）の医学校では Francisco da Cunha により「人間の精神物理学」が書かれました。こうした事情もあり，ブラジルでは現在も医学・医療と心理学の結びつきはかなり強固なように見受けられました。

1854 年にはバイア医学校出身の医師 EDUARDO FERREIRA FRANCA によって初めての心理学書『心理学的調査』が出版されました。

写真１　バイア医学校
（当時のまま。現在は博物館）

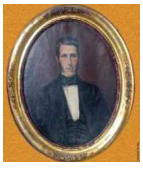

写真２
EDUARDO FERREIRA FRANCA
（http://www.fafich.ufmg.br/~memorandum/artigos03/rocha01.htm）

心理学実験室はビネやデュマなどのフランス心理学者の助けを借りながら 1906 年以降ブラジル各地に設置されていきました。下の写真の詳細は不明ですが，バイア医学校における心理学実験の様子です。

写真３　バイア医学校における初期の心理学実験の様子
（http://medicosilustresdabahia.blogspot.com/2011/01/114-eduardo-ferreira-franca.html）

教育の領域では 1890 年代から，政治家による教育改革が行われ，科学的な教師養成のために心理学が重要だと考えるようになり，師範学校において心理学実験室が開設されるようになりました。

1962 年，ブラジル政府は心理学（者）の活動に法的な裏付けや規制が必要だと公式に認知しました。また，同時期に連邦心理学カウンシル（Conselho Federal de Psicologia ＝ CFP ；Federal Psychology Council）や地域心理学カウンシル（Conselhos Regionais de Psicologia ＝ CRPs ；the Regional Psychology Council）という組織が各地に設立されました。心理学者を名乗って活動する者はすべてこの機関に登録する必要があり，サンパウロだけでも 11 万人が登録しているとのことで，このカウンシルは実際の職業規定や倫理に対して大きな影響力をもっています。

ブラジルでは，各州と首都ブラジリアにそれぞれ二つの公立大学が設置されています。私が今回訪れたのはバイア大学（UFBA ；うふばと読む）とサンパウロ大学（USP ；うすぴと読む）ですが，それぞれのルーツをもった古い大学です。近代的な心理学はサンパウロにおいてリベラルアーツの大学に心理学が設置されたことから，多くの大学で心理学はリベラルアーツに位置づけられることになり，現在では私学も含め 150 の大学で心理学のコースが設置されています。歴史・理論という部門がかなりしっかりしているだけではなく，社会文化的アプローチの力が強く，また，他職種との連携によって医療・法など多くの領域で心理学者が活躍しているように見受けられました。

写真４　サンパウロ大学で TEM について指導中の筆者。左端はジーマン准教授。